

2021年度 稲魂賞受賞者

記

No.	区分	氏名・団体名(敬称略)	学部・研究科	内容
1	個人	須崎 優衣	スポーツ科学部	東京2020オリンピックにて、レスリングフリースタイル/女子50kg級 金メダルを獲得した。
2	個人	山内 大夢	スポーツ科学部	東京2020オリンピックにて、陸上競技男子400mハードル準決勝に進出し、日本インカレでも優勝を果たした。
3	個人	大塚 達宣	スポーツ科学部	東京2020オリンピックにて、男子バレーボール 7位入賞に貢献した。
4	個人	新井 国憲	教育学部	ロータリーの会を立ち上げ、地域や企業、小学生と協働する等、様々な人々を巻き込みながら、地域課題の解決やボランティア活動を広げていくことに貢献した。
5	個人	大井 晃亮	環境・エネルギー研究科	BAM部の団体代表者として、地元の自治体やJAと連携し、放置竹林問題等に取り組み、VIVASEDAの団体代表者として、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた活動を継続する等、活動の活性化を牽引した。
6	個人	小宮山 正晴	人間科学研究科	「MOS世界学生大会 2021」のPowerPoint 2016部門 世界第1位を獲得した。
7	個人	内田 光咲	政治経済学部	各種珠算全国大会における優勝、ならびにそれに基づく海外普及活動・教育活動を行った。
8	個人	熊谷 豪晃	文化構想学部	早大生の学生生活に必要な情報を集約した総合アプリ「わせコマ」を開発し、学生生活の充実に貢献した。
9	個人	北川 梨津	経済学研究科	校友会奨学生で2021年度総代となった。
10	団体	自動車部	—	男子団体、女子団体合わせて3大会で優勝を達成し、男子団体は更に全日本総合杯を獲得した。
11	団体	VIVASEDA	—	東京2020オリンピック・パラリンピック開催の先行きが見えない状況の中、絶えず創意工夫をしながら、開催に向けた活動を継続し、貢献した。
12	特別賞 個人	鈴木 孝幸	2009年 教育学部	5大会連続出場となった、東京2020パラリンピックではパラ水泳チームの主将を務め、100m自由形（運動機能障害S4）での金メダルをはじめ出場5種目全てでメダルを獲得した。 また、東京2020パラリンピック期間中に行われたIPCアスリート評議員選挙にも日本人として初めて立候補し、当選した。
13	特別賞 個人	谷 真海	2012年 スポーツ科学研究科	東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会プレゼンターとしてスピーチを行い招致に貢献し、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2014」の大賞を受賞した。東京2020パラリンピック大会では開会式旗手を務めた。
14	特別賞 個人	本橋 菜子	2016 スポーツ科学部	東京2020オリンピックに女子バスケットボール日本代表として出場し、銀メダルを獲得した。
15	特別賞 個人	石井 志保子	1975年 理工学研究科	日本の学術賞として最も権威ある賞である「日本学士院賞・恩賜賞」を受賞した。
16	特別賞 個人	平田 仁子	2019年 社会科学研究科	草の根の環境保護活動家に贈られ、環境分野のノーベル賞とも呼ばれる国際賞「ゴールドマン環境賞」を受賞した。日本人の受賞は23年ぶり3人目、女性としては初めての受賞となった。
17	特別賞 個人	李 琴峰	2015年 日本語教育研究科	『彼岸花が咲く島』で第165回芥川賞を受賞した。

以上